



名画や美庭園、建築など美術館の魅力は大変奥深い。全国の1,000を超える美術館・博物館から、ぜひ訪れてみたい話題のミュージアムを紹介。芸術と向き合うことで、賢やかな時間と雰囲気をつつりと味わいたい。

そば打ちを体験しませんか

男の台所講座の参加者を募集

公民館講座「男の台所講座」は、男性に料理を身近に感じ、楽しんでもらうとうと開講している講座です。

今年度は、春・夏と旬の食材を生かし、それぞれの季節にあったメニューに挑戦しています。

第4回目となる9月の講座では、「そば打ち」を取り上げます。また、そばを使った



料理を楽しむ参加者

デザートも作ります。

この機会に「そば打ち」を体験してみませんか。参加者を募集しています。

▽日時 9月15日(木) 午前

9時30分～午後1時

▽会場 中央公民館

▽講師 徳持朝香さん

▽参加費

・年間登録料300円(初回のみ)

・材料費 実費 (当日お知らせします)

▽定員 20人(先着順)

▽募集期限 9月8日(木)

▽持ち物

エプロン、三角巾、布巾、箸、持ち帰り用容器

■問い合わせ・申込先 中央公民館

5人以上で登録できます

公民館登録グループ

公民館を5人以上で定期的に利用する場合、グループとして登録し、年間登録料2,000円を支払うことで、研修室などの使用料が1年間免除となります。

皆さんも気が合う仲間同士などで、グループ登録をし、活動してみませんか。既にたくさんの方々が登録し、その分野は、スポーツ、芸術、料理、園芸などさまざまで幅広いものになっています。

グループの活動内容については、各公民館にお問い合わせください。

多くの利用がありました 平成22年度公民館利用実績

公民館では、講座や講演会を数多く行っており、多くの人が参加しています。平成22年度の各公民館の講座参加者数などは次の表のとおりでした。

	公民館主催 講座参加者(人)	グループ活動 などによる 参加人数(人)	合計(人)	登録 グループ数
中央公民館	8,287	64,079	72,366	84
長船町公民館	11,572	17,648	29,220	68
牛窓町公民館	2,785	21,948	24,733	58
合計	22,644	103,675	126,319	210

Books



心がぽかぽかするニュース (社)日本新聞協会…編

新聞を読んでしあわせな気持ちになった記事とその理由を公募し、厳選された66件が1冊の本に。毎日の新聞が、私たちに困難な状況に立ち向かう勇気や温かい気持ちを運んでいることに気付かれます。



巻の八十

牛窓へのいざない

— 佐竹徳画伯と牛窓との出会い —

瀬戸内海の多島美や港町の町並み、丘陵の段々畑などで構成される優れた景観は、瀬戸内市では牛窓オリーブ園からの眺めが良く知られ、多くの観光客が訪れています。

今回は、瀬戸内海国立公園の一部ともなっている瀬戸内海沿岸の景観に魅せられた画家と牛窓との出会いを紹介します。

瀬戸内海国立公園

瀬戸内海国立公園は、昭和9年に国立公園の一つとして指定されました。

指定当初は牛窓周辺を含む

備讃瀬戸を中心とした一帯のみでしたが、その後、区域の拡張が図られました。現在は紀淡、鳴門、関門、豊予の四つの海峡に区切られた陸域・海域が含まれ、日本一広大な国立公園となっています。大小千余りにおよぶ島々で形成された内海多島海景観がその最大の特色です。

佐竹徳画伯と牛窓との出会い

牛窓オリーブ園は「オリーブの画家」と称された画家・佐竹徳がその風景に魅了された場所です。佐竹画伯が牛窓を訪れたの

は昭和34年春のことでした。高松市の病院に入院していた恩師を見舞った帰途、児島市下津井(現倉敷市下津井)に旧友阿藤秀一郎を訪ね、牛窓オリーブ園に案内されました。そのとき、佐竹画伯は眼下に広がる景観に、かつて佐竹画伯が衝撃を受けたセザンヌが描いた南プロヴァンス地方に似たものを感じ、赤い土とオリーブの緑に強く心を引かれ、その後、牛窓に居を借りて制作に明け暮れる生活を過ごすことになりました。

佐竹画伯が描いた『オリーブと海(牛窓)』は第10回新日展において内閣総理大臣賞を受賞し、「自然に対する謙虚な態度をもって、その美をよく表現し得た優作である」と認められ、第24回日本芸術院賞が贈られました。



阿藤秀一郎画伯

佐竹画伯の描いた絵画を通して牛窓の景観美が全国に知れることになり、今でも牛窓オリーブ園を題材に描く人が少なくありません。

阿藤秀一郎氏とは

佐竹画伯に牛窓を紹介した人物・阿藤秀一郎は、生涯、絵を描くことに憑かれた画家です。明治19(1888)年に現在の浅口市鴨方町に生まれ、20歳の時に関西美術院に入学、その後、上京して川端絵画研究所へ入学、大正12(1923)年に渡仏しています。

佐竹画伯と知り合ったのは、この川端絵画研究所時代

とされています。

阿藤画伯は、帰国後、定住することなく、日本各地を巡った後、下津井に移り住みました。思い立てばすぐに絵を描きに出かけ、長く家を空けることが多かったようです。晩年は、入院生活を送り、病院の中で描いていました。

「いつもにこやかで言葉がやさしく、欲が無い」。2人の画伯に共通して語られる人物評です。阿藤・佐竹両画伯は互いに何か相通じるものを感じ、交友があったのかもしれない。

また、阿藤画伯は、瀬戸内海国立公園の牛窓をPRするために作られた「牛窓油絵々葉書」の原画を描いた画家ですが、牛窓との関係は詳細にはわかっていません。



牛窓油絵々葉書